保護者様

月のうさぎ通信 5

平成30年2月16日
アソカ幼稚園
千葉　祥乃
佐野　美和子

２月６日（火）～２月１１日(日)

いよいよ月のうさぎ通信も最終号になりました。
１０日、１１日と２日にわたり子ども達は本当に頑張りました。
大きな舞台に立ち、ライトを浴びて沢山の拍手をいただいたこと、何より自分たちが一生懸命に頑張ったことを皆様に観てもらえた喜びは、また一つ大きな力につながったことと思います。
そして、劇を通して大切なメッセージを沢山の方々にしっかり届けてくれたことを、心より嬉しく思います。

年明け練習を開始してから、沢山の子がインフルエンザに次々に罹ってしまい、毎日１０人は欠席という日々が続いていました。
徐々にお休みの子が減って、このまま治まってくれるのかしら・・・と思いきや、残念ながらまたお休みの子が増えてきました。幼稚園でも予防の手洗いうがいを徹底して行っています。
そんななか美智子先生、美和子先生も少し声がガラガラに。「美和子先生どうしたの？声がすごいよ」と心配するきく組さん。あと少し、子ども達も先生達ももうひと踏ん張り、頑張りどころです。

火曜日は朝から「今日衣裳の日だよね」「どこでやるの？」と〇〇君。「3 階でやりますよ」と伝えると、〇〇ちゃんは「大変、私の衣装がないよ」といつも衣装を置いているところに仲良しバックがないことに気づいて慌てています。「大丈夫 3 階にもう先生が運んであるから」と伝えました。衣装練習を楽しみにしていた子ども達は朝の遊びの片付けも、超スピードで頑張っていました。
着る時の順序や、脱いだ服の始末の仕方など、大切なことを一斉に説明しましたが、皆驚くほど真剣な顔で実に静粛でした。「よーい、はじめ！」でスタートです。
トリの衣装を着た〇〇ちゃん「つばさは後で付けるから待っててね」と言われ「はーい待ってる」とその声からは、ワクワクが止まらないという感じがひしひしと伝わってきました。そしてその姿で待っているうちに「なんだか翼がないとペンギンみたい」とみんなに言いながら体を左右にゆらして、ペンギン歩きをしていました。〇〇君は他の動物に付けられていく尻尾をみて「ねー、しかさんにしっぽはないの？」と自分もしっぽが欲しくなったようです。着ていた自分の洋服は後で着るからくしゃくしゃにせずに、きれいに仲良しバックに入れます。こうや君はとても早くきれいに畳み、バックにしまっていました。「すっごく綺麗に畳めたね」と言うと「いつもこうやってる」と自慢げです。そしてたたみ方も教えてくれました。
初めての早着替え練習に要した時間は１１分。本番ではこのタイムを５分以内に縮める予定でいます。

動物ダンスはやはりトラが人気です。
一日中、３階で劇練習をしていても、帰りの会でトラダンスを全員で踊ってみましょう！と言うと、大はしゃぎ。トラさんが前に出て来て見本の先生役をしてくれます。「手はもっと高くこうやってあげるんだよ」と〇〇君が言うと「そうそう、強そうに力入れるんだよ」と〇〇ちゃんが続きます。本当の先生のようでした。

幼稚園で最後の練習となった金曜日、細かく場面ごとに区切って練習したり役ごとに詰めて練習したりしました。トラさんが「特訓」と称して演技指導を美智子先生にしてもらった後、みんなの前に帰っ

てきました。今まで常に全力で声を張っていたトラさんでしたが、声の抑揚や表情、雰囲気まで加わり見違えるように上手になり、劇は一層面白くなりました。
（美智子先生からは、「自分達で研究してみて」というアドバイスを頂いただけと聞いています）
そんなトラさんをみて刺激を受けたのでしょう「ぼくも特訓してほしいな」と〇〇君
私が「どこやってもらいたいの？」と聞くと「はぐれねずみのところ」と話します。
「〇〇ちゃんもやりたいな、今日は旅人一人だけど」と〇〇ちゃんも言います。
どの子も台詞を覚えるだけではなく、その言い方や雰囲気つくりの演出まで興味をもてる程、練習をやり込んだということだと思いました。
　初めて練習中にカワウソさんが泳ぐ小川を出しました。大人の人手不足で小川を持って揺らすのを、その場面に出番のない〇〇君に手伝ってもらいました。
「これすごく軽そうに見えるでしょう？めちゃくちゃ重い」と驚いた様子で周りの子に伝えていました。
そして、「先生たちお疲れ様」と労ってもくれました。
〇〇ちゃんは「川があるほうがいい」と嬉しそうにカワウソダンスをしていました。
　最後の練習を終えた帰りの会、「失敗したって大丈夫！」
「いつでもいつでも応援してる！」
と、月のうさぎの歌詞になぞってみんなで「エイエイオー！」して、美智子先生と握手をして降園にしました。そんな中、〇〇君が急に泣き出してしまいました。
理由を聞いてみると「あとちょっとしかできない」と。直前になり不安になったのかと思い
「大丈夫よ、台詞もばっちりだったじゃない」と声をかけると「ううん違うの、ぼく知ってるの、月のうさぎが終わったら幼稚園とバイバイの日がすぐきちゃうんでしょ？」と悲しそうに言いました。「泣かないで〇〇くん、幼稚園に遊びに来てもいいんだよ」と〇〇ちゃん。「そうそう、それにまだたくさん遊べるよ」と〇〇君。みんなで〇〇君のことを励ましてあげました。私も思わず泣きそうになりました。
練習を振り返ってもあっという間だったので、これからの一か月もあっという間なのかな・・と、ふと思いました。
　2月10日（土）リハーサルの日、「おはようございます！」と元気に挨拶をしに来てくれた〇〇ちゃん。「先生ドキドキしちゃうね」と言いながらとても嬉しそう。〇〇ちゃんは「わ！」と後ろからとびついて私をおどかしてきました。みんなより私のほうが緊張していて固まり気味でした。
お休みの子が3人いたので、その子達の台詞の代役をお願いしました。
たかかつ君の台詞のかわりは、同じカワウソの〇〇ちゃんにお願いしました。
はじめは不安そうな顔で「忘れちゃうかも・・・」と言っていたのですが舞台にたつと忘れることなく堂々と台詞を言えていてびっくりしました。リハーサルで、初めてうさぎの焚火にろうそくの火を点けたのですが、「わ～火だよ…見てみて」と舞台にいながら炎が気なって仕方ない様子の〇〇君。
私は慌てて、身振り手振りで「前向きなさい、おしゃべりもしちゃだめ！」とジェスチャーすると
〇〇君も声は出さずに「はーい」と表情で応えてくれ、前を向きなおしていました。
　2月11日（日）本番、前日私は全く眠れませんでした。子ども達もリハーサルより緊張した様子の子もいました。
「ここからママが見えるよ」と舞台にあがったたすく君は、さっそくお母さんを探します、余裕です。
この日は来た子から着替えをどんどんしていきました。
自分で着替えるのも上手になりました。カワウソの衣装は背中にファスナーがあるので、一人では着ることができませんし、着替えの途中で尻尾を結ばなくてはなりません。〇〇ちゃんは手順を自分で考えて「ここで先生に結んでもらう」としっぽをつけるタイミングを把握していました。
そして、練習を始めてから、初めてクラスの全員が揃いました。
私はそのことが嬉しくて「はじめてみんな揃ったね～」と言うと「え～！！はじめてなの？」とみんな

びっくりしていました。〇〇君は「ぼくはおやすみしたことないよ」と誇らしげに言っていました。開演し、いたずらっこ３人が舞台にでたとき、他の全員は幕裏の舞台で待機しています。幕の隙間からお客さんを覗こうとするのはそうた君。「こら！そんなことしないわよ」と注意され、
「本物のいたずらっこね」と言われて苦笑いしていました。

開演したら本当にあっという間で、舞台袖から送り出す子ども達の背中がすごく逞しく見えました。そして歌を歌うときの真剣なまなざしや表情に何度も目頭が熱くなりました。
舞台袖ではお喋りもせず、とても静かに出番を待っていることができていました。
次に出るのは〇〇だから、こっちで待った方がいいな・・・と、そんなことも考えながら待機出来ていて、自分の劇（出番）だけでなく、お話の全体が子ども達のなかにしっかり入っていることを感じました。

終演後の子ども達は、大舞台をやり切った自信と達成感で一段と生き生きしていました。おうちの人に早く褒めてほしかったのでしょう、はると君は客席の離れたところにいたお母さんを「お母さんいた！」とみつけました。
私は「待っていたらここまできてくれるわよ」と言ったのですが、待ちきれずにお母さんの所に走っていきました。どの子もおうちでたくさん褒めてもらえたことでしょう。